



相良中学校では、コロナ禍で行うことができなかった中学2年生の職業体験学習(キャリア教育)を、形を変えて、以下の内容で進めました。



講話

【ねらい】地域の産業と地域で働く人の生き方や職業観を学び、地域や自己の将来を探り、自己の生き方について考える。

講話①講師：大橋徳久氏 <㈱ゲネシス社長；牧之原市白井（白井団地内）>
内容：『バイオガス発電所 ゲネシス』

講話②講師：平松きよ子氏 <㈱掛川森林果樹園・アトリエ社長；掛川市下俣>
内容：『マナー講座』



地元企業の大橋社長のお話を聞きたかったところですが、相良中に到着するとちょうど、お話を終えて、体育館から出てきたところでした。若手の社長のお話は、きっと熱のある思いのこもった話ではなかったでしょうか。牧之原市内でがんばっている企業の社長さんのお話を聞くのは、キャリア教育とともに、この牧之原でがんばっている人がいることを知る良い機会になると思いました。講話②の平松きよ子社長は、「たこ満」といった方がわかるかもしれません。「たこ満」さんの従業員のマナー指導をされてきた企業人。講話のスタートでは相中生のあいさつに「喝」を入れていました。生徒は挨拶一つに平松さんが込めている思いを知ったのではないのでしょうか。

教育コーディネーターのつぶやき

①今野会長は、地元企業をよく知っているので、今野会長の推薦で、地元でがんばっている企業の方の講話をこれからもやってほしいなあ。②マナー講座は、運営協議会メンバーの河村さんも適任だなあ。

グループ面談

【ねらい】グループ面接から、友達の考えていることや将来への思い知ることを通して、自己の内面（よさ）に気づいたり、これからの自分を考える機会にする。

面接官（運営協議会委員）：今野英明さん（㈱光誠工業代表取締役）、早川和幸さん（元相良中校長）

横山昭吾さん（お茶と人形劇の専門店店主）河村恵子さん（㈱河村バーナー元代表取締役）→ピンチヒッター；教頭先生



4つの面接会場を拝見させていただきましたが、どの会場においても、真剣な表情で面接官に自分の思いを一生懸命伝えようとする生徒の姿を見ることができました。緊張する生徒の様子がとても新鮮でした。今までの自分を振り返り、これからの目指す姿をイメージする発言や将来を描いて、少し自信なさげに『なりたい自分』を表現する姿は思わず応援したくなりました。

話は変わりますが、今年の相良中コミュニティ・スクール（運営協議会）の目標は、「学校を知る」を第一目標にしながら進んでいるようですが、この面接指導は、その核心である「子ども（生徒）を知る」ということの実践だと受け止めました。また、2年生だけにとどまることなく、3年生の進路面談指導にも発展できるなあとも思いました。

おまけ

職業体験では、その企業の仕事を体験するだけでなく、その職場の方に「働くことの意義、大変さ」はもちろん、「やりがい」やその方自身の「仕事への思い」を話していただく時間を組み入れていくことで、より生徒たちが、自分の将来への思いを広げることになります。さらに、地元の会社を知り、地元でがんばる人を知り、牧之原への思いを深めることにも繋がるようになります。（起郷家教育）また、小学校でも、校外学習で地域の会社にうかがうことがあると思いますが、その学習が終わったところで、説明して下さる方が、なぜその仕事に就いたのか、その仕事のやりがいは何か、その仕事をしていてよかったと感じたエピソードなどを学習の中に少し入れていただくことでキャリア教育つまり「生き方指導」に繋がります。このようなことを小学校、中学校で共通に実践していただくと、「あり方検討」で出された方針「キャリア教育を軸とした」の具体の一つに繋がります。

